

日中労働情報フォーラム 第4回総会(2016/4/16)

「東京満蒙開拓団」

～その背景と史実から学ぶもの～

藤村 妙子 (東京の満蒙開拓団を知る会)

1 東京満蒙開拓団の概略

東京から開拓団に送りだされた人数 開拓団 9,116人 青少年義勇軍1,995人 合計 1万1111人
全国9位 (「満州開拓史」)

① 「最後の生活者・屋外居住者」の渡満期

▪ **天照園移民** 1932年6月18日 天照園から渡満 以降1936年まで毎春渡満 1936年時点の開拓地での在籍者62名(満鉄調査による) (官製の「武装移民」の出発は同年10月)

▪ **多摩川農民訓練所からの移民** 1935年4月30日 以降1939年4月まで434名渡満 「修養団・上宮教会、救世軍」が運営 (公設民営)

・特徴 都市に流入した人々が渡満者の中心。1

「満州移民のモルモット」

② 転業開拓団 都市の「平和産業従事者」の渡満

1936年8月26日 「満州移民100万戸計画」決定 (ブラジル移民の頓挫)

東京都として 訓練所の抜本的強化 民営→官営へ

1938年東京市大泉労働訓練所

1939年5月 東京市興亜勤労訓練所 三鷹

1939年7月 東京府拓務訓練所(南多摩郡七生村)の創設
多摩川農民訓練所の廃止

東京における総合センターとしての役割

1939年東京府初の単独開拓団「第八次東京郷開拓団」

1944年の時点で553名 (多くが転業者)

1941年以降増えた開拓団

転業して開拓団として渡ったと推測される人は、約3400人(会の調べ)

荏原郷開拓団 1944年6月に入植 1039人

特徴

- ・ 開拓団になった人たちは、都市の「平和産業」に従事していた商工業者
 - ・ 訓練所は官営となり、男性の訓練者だけではなく、大陸の花嫁、義勇軍の訓練所や子供たち向けの宣伝訓練施設でもあった。

③ 満州疎開 空襲下での満州への疎開

1944 「落葉松開拓団」(東京計器関係者が中心)

1945 「常磐松開拓団」(東京農大の関係者が中心) 8月9日未明牡丹江に到着

特徴

国 満州を疎開地とした。1945年3月30日 区役所があっせん

国 満州への送出中止 1945年7月2日

④ 「国士館」「東京農大」を母体とした学生移民、学生の勤労奉仕隊「報国農場」

国士館関係者を中心とした「鏡泊学園」

学園解散後も満州にとどまる

鏡泊湖に残った人たちは、1944年共に漁業などをしていた現地の農民が日本軍によって冤罪で捕まると救出に奔走した。

『「五族協和」は偽りか』と 当時の協和会幹部に迫っていった。

三河共同農場に行った人たちは、戦後那須に入植し観光農園「南ヶ丘牧場」を作った。

東京農大を母体にした人たち 1944年4月に渡満した大学一年生は79名を含む95名のうち58名が死亡している。

⑤ キリスト者(賀川 豊彦)、仏教(仁義佛立講)

宗教集団を母体に行っているが、信者以外の人もいた。

⑥ 大陸の花嫁

1939年多摩川農民訓練所の跡地にできる

修養団の名誉顧問 平沼騏一郎は当時の総理大臣だった

上宮協会、修養団が運営

その他の訓練所 東京都女子拓務訓練所 東京興亜女子拓務訓練所 東京商工会議所女子訓練所

特徴

- ・ 「民族資源の確保のために開拓団を定着させる」「民族資源の量的確保と純潔の保持」「日本婦人道の移植」「民族協和」の目的
- ・ 女性指導者の果たした役割「理想郷」
- ・ 女もお国に役立つ
- ・ 「疑似的解放」

⑦ 青少年義勇軍

独自の送りだしは、1943堀米中隊、1945年の堀江中隊

渡らなかった「吉田中隊」(1945年8月広島で勤労奉仕をしていた。6日は東広島にいたので助かった)

特徴

敗戦直前から始まった独自の送りだし

戦後も国内開拓農民として生きた人たちがいた。(百里基反対運動に参加)

2 棄民としての満蒙開拓団

・都市に流入した「最後の生活者」は『犯罪者になるか、浮浪的生活に転落するか、自ら殺すか』(畑野 喜一「どん底にさぐる」)

・「大勢の商業は不要、敵は大空襲を狙っている、転業者は工場で武器を作るか、食料を作るかの道しかない」(武蔵小山商店街の回覧板)

・「中国大陸を徒歩で結集地に向かったあの記憶がよみがえりました。原発事故の避難は、徒歩が車になっただけで。延々と続く車の列とその数日間の生活は、あの苦しかった戦争そのものでした。そして私はおびえました。国策により二度も棄民にされてしまう恐怖です。いつの時代も国策で苦しむのは罪もない弱い民衆なのです。」(橋 柳子さんの2012年3月11日の発言)

3 史実から学ぶもの

・「なぜ私たちはここへ来たのか。なぜ関東軍は私たちを捨てたのか。それを知りたくて中国語や中国の歴史を学んだ。そして、自分もその侵略者の一員、加害者の一人だったと痛感しました。」(鈴木則子「国に棄てられるということ」)

・なぜ「小河内村の人々は開拓団にならなかった」のか

生きるために無自覚に巻き込まれていく民衆。この「大きくだます」ことと対決することが必要。

東京からの満蒙開拓団入植図



- ①-1 満洲農業実習所 ①天照園移民 ②鏡泊学園 ③興隆川東京村 ④長嶺子基督教
- ⑤亮子河協和 ⑥十一道溝東京 ⑦長峇八丈 ⑧新安東京 ⑨仁義佛立 ⑩顧郷屯東京
- ⑪東京郷 ⑫一面坡 堀米中隊 ⑬新京東京報国農場 ⑭扶余東京報国農場
- ⑮虻牛哨(メンニウシャオ) 蒲田郷 ⑯興安荏原郷 ⑰勃利堀江中隊 ⑱東京農業大学
- ⑲扶余東京 ⑳新京東京 ㉑南緑ヶ丘(太平鎮)基督教 ㉒常盤松 ㉓-1城子河(当初)
- ㉓-2城子河(移転先) ㉔ホロンバイル ㉕三河

東京からの満蒙開拓団一覧表

	種類	名称	省	入植 西暦	人口	備考
1	分散・集合・ 帰農	(天照園) 一樹園開拓組合	興安南省	1932	327	①入植園は渡満年。②1942年転業組受け入れ、③人口は『年鑑』
2	分散開拓団	鏡泊学園	牡丹江省	1933	277	①人口は、1次2次合算。②解散後、城子河・呼倫貝爾等に分散、残留は23名。
3	集団	興隆川東京村	吉林省	1939	553	①人口は『年鑑』。②前職： 商業53% 工業36% 農業11% (朝日新聞1941年3月1日)
4	集合・帰農	亮子河協和	東満総省	1939	214	①人口は『年鑑』。②転業
5	集合	長嶺子基督教	浜江省	1940	111	①人口は『年鑑』。②転業
6	集団	十一道溝東京	北安省	1941	215	①人口は『年鑑』。②計画戸数 300戸
7	集団	長峯八丈	牡丹江省	1941	372	①人口は『年鑑』。②転業 前職：農50戸 商48戸 工50戸 計画戸数300 (『開拓史』)
8	集団・帰農	新安東京	吉林省	1942	258	①人口は『年鑑』。②転業 東京商工会議所が送出母体。1942年から敗戦まで10次にわたり渡満
9	集団・帰農	仁義 佛立郷	興安南省	1943	636	①人口は、『集団第十二次仁義佛立開拓団』(東京都民政局援護部・開拓団資料) ②転業
10	集団・帰農	顧郷屯東京	浜江省	1943	191	①人口は『開拓史』。②次行の東京郷とは隣接していたものと考えられる。③転業
11	集団・帰農	東京郷	浜江省	1943	71	①人口は『年鑑』。②前行の顧郷屯とは隣接していたものと考えられる。③転業
12	義勇隊訓練所	一面坡 堀米中隊	浜江省	1943	250	①人口は『開拓史』。②1943年内原入所。1943年9月渡満。
13	報国農場	新京東京報国農場	吉林省	1943	71	①人口は『新京東京報国農場調査資料』(東京都民政局援護部 1946)
14	報国農場	扶余東京報国農場	吉林省	1944	126	①人口は、『報国農場』。②転業・疎開
15	集合	虻牛哨 (メンニウ シャオ) 蒲田郷	四平省	1944	48	①人口は『開拓史』。②東京落葉松開拓団とも呼ばれる。③転業・疎開
16	集団開拓団	興安荏原郷	興安南省	1944	1391	①人口は、『昭和十九年六月興安東京開拓団の概況』(品川区史資料編 1970) ②転業・疎開
17	義勇隊訓練所	勃利 堀江中隊	東安省	1944	237	①人口は『開拓史』。②1944年内原入所。1945年3月渡満。
18	報国農場	東京農業大学	東安省	1944	89	①人口は、『凍土の果てに』(黒川泰三 1984) から積算。
19	集団	扶余東京	吉林省	1945	120	①人口は、『報国農場』。②転業・疎開
20	集団	新京東京	吉林省	1945	—	①当団は、計画されたが実現しなかった。
21	集団	太平鎮南緑ヶ丘基督教	三江省	1945	11	①人口は『改訂版満州基督教開拓団と賀川豊彦』(賀川資料館ブックレット 2007) ②転業・疎開
22	集合	常盤松	東安省	1945	25	①人口(団員)数は、『渡満の行程』(太田淑子 1998 『生還者の覚書き』所収) ②転業・疎開
23	鏡泊学園から 編入 集団	城子河	東安省→ 吉林省	1935	45	①人口は編入時。②第4次城子河開拓団全体では723人(『年鑑』) ③1941年に移転
24	鏡泊学園から 派生 集合	ホロンバイル	興安北省	1935	71	①人口は『年鑑』。②派生時、ハイラル部隊の除隊兵と結成
25	鏡泊学園から 派生 分散	三河共同農場	興安北省	1936	21	①人口は『年鑑』。

【年鑑】：『満洲開拓年鑑』(満洲国通信社 昭和19年版 団データは昭和18年12月1日現在)

【開拓史】：『満洲開拓史』(満洲開拓史刊行会 1967)

【報国農場】：『嗚呼 満州東京報国農場』(朝倉康雅 1980) 作成：東京の満蒙開拓団を知る会 (2012年8月) (11月改訂)

多摩川女子拓務訓練所

1939年6月15日設立

上宮教会。修養団が運営



満蒙へ送る花嫁さん (『写真週報』73号 1939年7月12日)

読売新聞

1943年4月8日 朝刊

東京村建設の希望者拓士・花嫁を募る

帝前建設省が東京村は東京郊外に二百戸の入植を補助し、元了し、なので、敢て、東京村建設希望者並に花嫁を募る。

場所 満洲国新京市郊外最適地

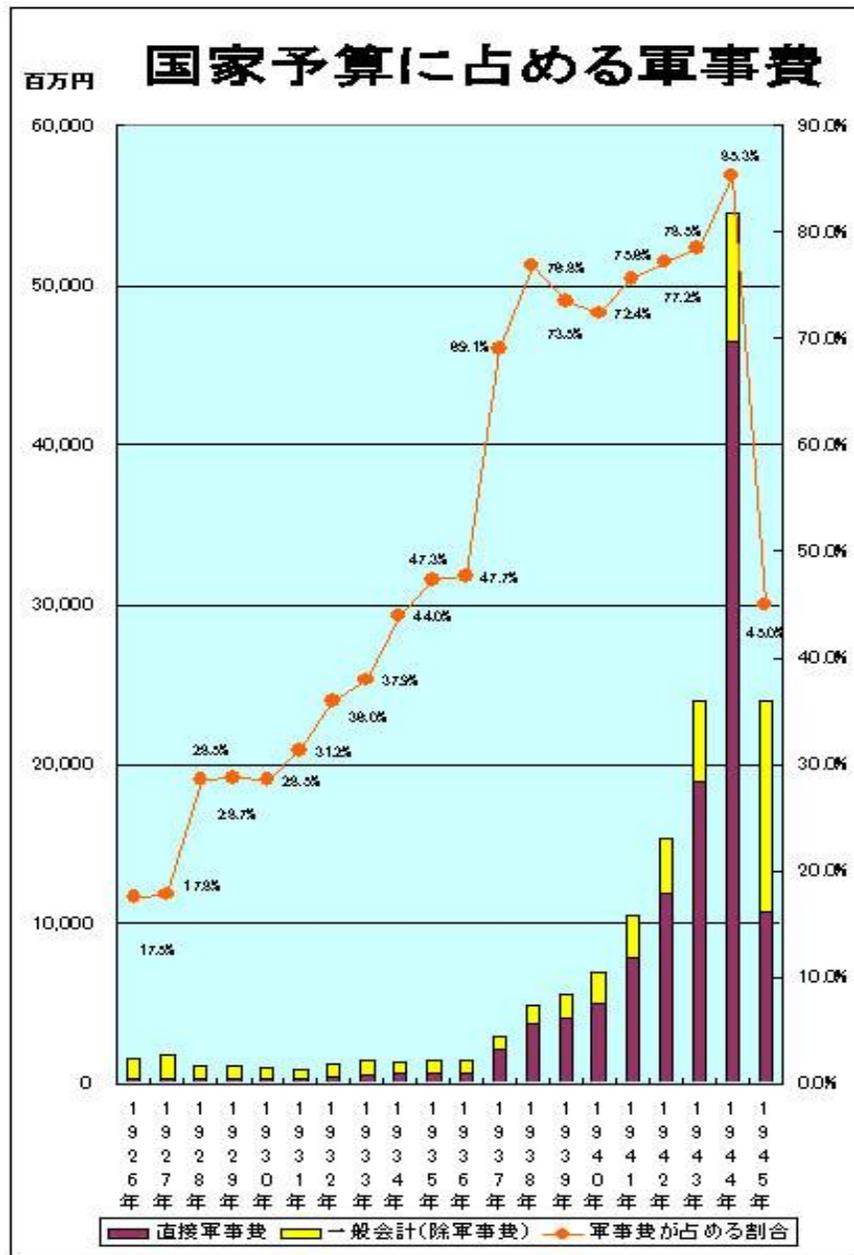
資格 年齢二十歳以上五十歳迄の男子(家族持歓迎)

人員 拓士五十名、女子十五名

特典 海運費、家族持歓迎、其の他被服の交付(拓士)

申込場所 町区丸の内三ノ四(官場本門角)

東京府・東京商工會議所
東京商工會議所



東京100年史第5巻（同編集委員会
1979年）から会が作成

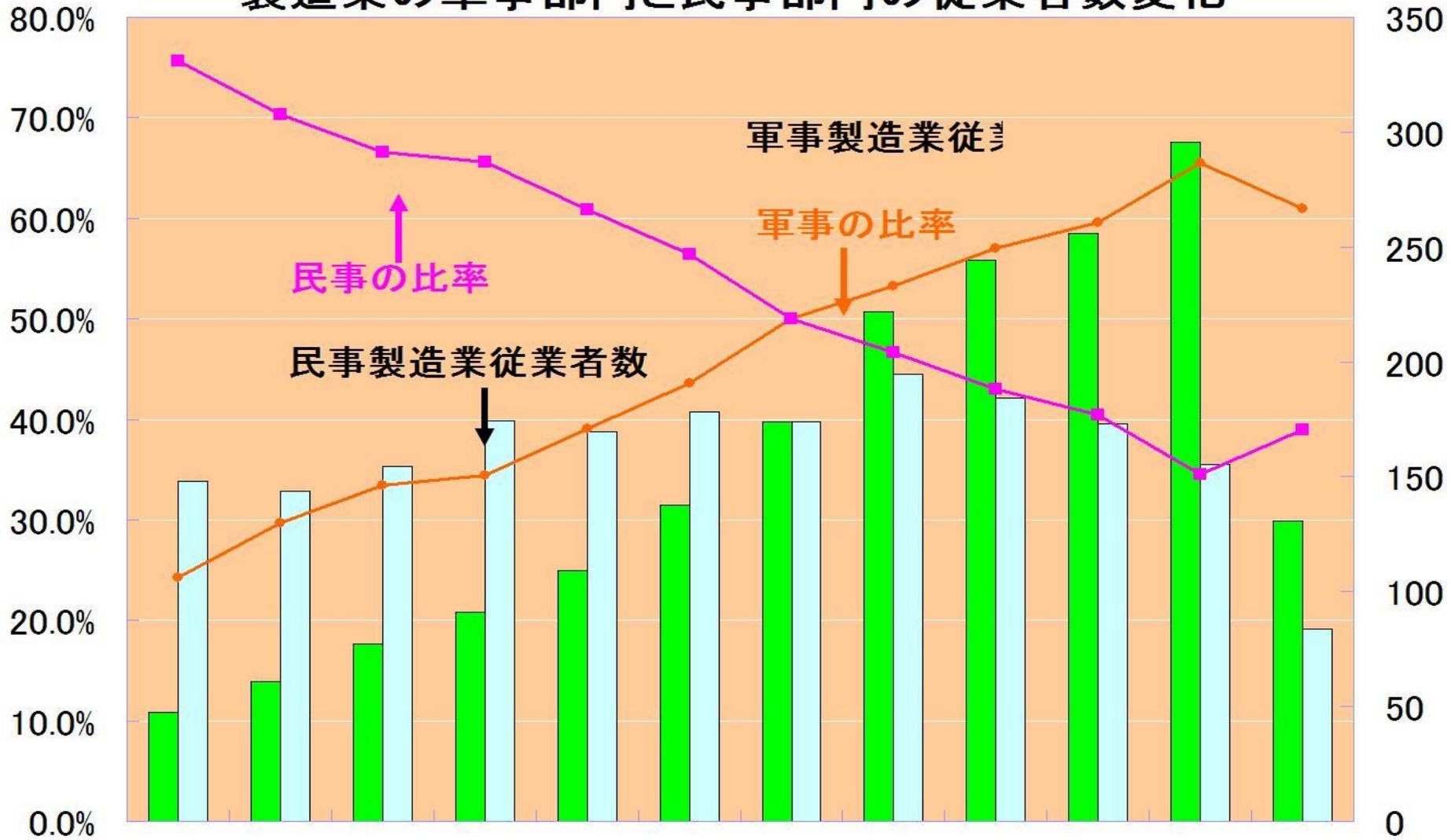
軍事費は、陸海空軍事費および
臨時軍事費、徴兵費の合計

製造業の軍事部門と民事部門の従業者数変化

万人

折れ線
軍事・民事の比率

棒グラフ
製造業従業者数



■ 軍事関連部門 □ 生活関連部門 —●— 軍事比率 —■— 民事比率

1. 日本人は、中国人を追い出し土地と家を占拠した
2. 数戸の中国人だけ残され、雑役や草取りをさせられた
3. 家屋や土地代は、一切払わなかった
4. 日本人は、耕作に未熟だったので、広い土地を荒地にした
5. 日本人が中国人を殴ったり怒鳴ったりするのは日常茶飯事だった

「敗戦時の訓令」より抜粋

1945年8月14日 大東亜大臣発令

(口) 寄留民は出来る限りの定着の方針をとる

⇒帰国の道ではなく、すでに棄民の道が採られていた

読書

■東京満蒙開拓団

東京の満蒙開拓団を知る会(著)

「目からウロコ」とは、このことだろう。

満蒙開拓団とは旧満州農業移民であるから、長野県や山梨県など農村部の人たちで組織された、と思っていた。事実、そうなのだが、初めての開拓団は東京から送られたのである。これは、知らなかった。

昭和初めの世界恐慌の不況で失業者が増大、農村は冷害による凶作である。人々は都会を頼って流入する。当時は屋外居住者と呼ばれたホームレスのために、深川の埋め立て地に無料宿泊所が設けられた。農民として更生させる目的で、軍の協力を得て収容者を満州に送り込んだのが昭和七年、これがちに国策となる満蒙開拓団の最初である。

新聞は、「ルンペン美談」と大きく取り上げる。彼らは地方の次男坊以下がほとんどで(原籍東京は一割未満)、しかし東京発の農業移民ということで注目された。

国策で転業開拓が推奨されると、配給制で商売が立ちゆ



大陸へ移住した江戸っ子たち

かなくなつた商店街の人たちが、「江戸っ子開拓団」とはやされて満州移住を決意する。

一方、十四歳から十九歳の「青少年義勇軍」が送られる。彼らは「江戸っ子部隊」と称された。満蒙開拓団や青少年義勇軍は、昭和二十年五月までに、全国からおよそ三十二万人が送りだされた。このうち東京からは一万一千人である。これは県別にみると九位の人数である。

このほか義勇軍や独身開拓者のために、「大陸の花嫁」募集があり、国と東京がその養成所「多摩川女子拓務訓練所」を開設した。娘たちには、姑のいない気楽な生活ができる、と暗に謳い文句にした。開拓団には「東京の女」を売りにしたのではあるまいか。「東京」は宣伝に恰好だったろう。最後の開拓団も東京で、内実は大空襲による疎開だ。

本書は一般の人たちの努力で成った。画期的な研究である。昔の話ではない。原発事故と「棄民」。開拓団の結末同様、国策の怖ろしさは今も。

評・出久根 達郎

作家

ゆまに書房・1890円/著者は地域ミニコミ誌「おたジャール」編集責任者の今井英男と多田鉄男、藤村妙子。

東京の満蒙開拓団を知る会 著

東京の満蒙開拓団

「東京の満蒙開拓団を知る会」の若い人々の手で恐慌下ルンペン開拓団から大空襲下の疎開開拓団まで全貌が明らかに!! —— 井出 孫六

ゆまに書房 定価：本体 1,800円+税